

○年齢（学年）別のチェックポイント（個人差はあります）

① 1年生・・・上顎は前歯（真ん中の中切歯）と下顎は前歯4本が生えているか？また、上下の前歯の噛み合わせは？

上下の一番奥に6歳臼歯（第一大臼歯）が生えているかどうか？

② 2年生・・・上顎は中切歯に続いてその横の側切歯が生えているかどうか？また、上下の前歯の噛み合わせは？

前歯の噛み合わせが逆になっている、または、“目立つ出っ歯”の場合、歯科受診を！

上下の一番奥に6歳臼歯（第一大臼歯）が生えているかどうか？

この時点で6歳臼歯が生えていない場合は歯科受診へ。

③ 3年生・・・前歯に続いて横の小白歯（上下の第一小白歯）も生えてくる時期。下顎は乳歯の犬歯が抜ける時期。上顎の乳歯の犬歯はまだ、生え変わらない場合が

多いです。

この時期、上の前歯が“出っ歯”ぎみになって気になる場合は歯科受診をお勧めします。

もちろん、噛み合わせが逆（反対咬合）の場合も歯科受診を！

④ 4年生・・・そろそろ、上顎犬歯が生え変わる時期です。

前歯が4本

並んでいたとしても、犬歯がきれいに並ぶケースは少ないです。

確認のため、歯科を受診されてもいいと思います。

できれば、犬歯の並ぶスペースがあるかどうか、歯科で確認してもらってください。

生えかわりの早い子は奥歯も抜けて、そろそろ子どもの歯がすべて

生えそろいます。

さらに、この時期までに前歯の噛み合わせ（受け口、出っ歯）を治しておかないと、これから背がグーンと伸びる時期になると、さらに重症化しますので注意が必要

です。

重症化とは、単に“歯の問題”から“顔の問題”になる、顔のかたちまで変わってくるということです。

ただ、この時点で歯科を受診したとしても、矯正治療は時間がかかりますから、遅すぎるきらいはありますが、それでも、マウスピース矯正など、矯正治療の進歩により、ある程度対応可能です。

- ⑤ 5年生・・・上顎の犬歯も生え、ほぼ歯列は上下完成してきます。

生え変わりの遅いお子さんは、まだ、乳歯が（乳犬歯、第一乳臼歯、第二乳臼歯の3本）残っているケースもあります。

上顎の犬歯がきれいに並ばず、八重歯の状態になり、お子さんが気になっている場合も歯科受診をおすすめします。

矯正治療は期間も手間も費用もかかるので、お子様ご本人のやる気が第一です。

医学的には、矯正治療の開始時期が遅くても、ご本人

がやる気になれば、良い結果が出やすいのです。

⑥ 6年生・・・多くのお子さんが子どもの奥歯の第二乳白歯を残して

歯の生え変わりが完了します。

そして、下顎の一番奥（親知らずは除く）の歯である12歳臼歯（第二大臼歯）の生えるのを待つ段階になります。

ここで注意していただきたいのは、最近の傾向として、この下顎の第二大臼歯がまっすぐに生えてこないお子さんが増えているということです。

ちゃんと生えてきているかどうか確認してあげてください。

横向きに歯が倒れて生えてきたり、よく分からない場合は、歯科を受診されてください。